

## 観音塚古墳(高崎市)

前方の木々のところが観音塚古墳/南西側から見たところ/前方後円墳で左手が前方部、右手が後円部



同じく南西側から近づいて見たところで、丁度正面辺りがくびれ部/何せ建物があってうまく全景が撮れない





そのくびれ部を見たところ



これは東側から後円部を見たところ/基壇を設けた上に墳丘をのせる2段の形式で造られている





左手を見たところ/道路で墳丘裾が削られている



右手を見たところ/向こうが前方部、手前が後円部





後円部を見上げたところ



これは前方部から後円部方向を見たところ/手前に古びた説明板が立っている





これは前方部先端裾を北東側から南西方向に見たところ



この古墳の築造年代は、榛名山ニツ岳爆裂以後(7世紀初頭)、大化の改新以前(645年)で、7世紀前半の頃と推定されている

# 史跡 観音塚古墳

所在地 高崎市八幡町字観音塚一〇八七  
指定年月日 昭和二十三年一月一日

この古墳は、円丘部を東に置き東西に長い前方後円墳で、墓室を設けた上に墳丘をのせる二段の形式で造られている。死者を埋葬する石室は、巨石積み横穴式のものであり、奥壁がさかかけわたされた天井石の巨大さは県内ではめづらしいものである。



## 特色

一 巨石巨室の前方後円墳として、最終時期にあたり、大和石舞台古墳と対比できる。

一 副葬品は、綿貫観音山古墳(高崎市綿貫町)、金鈴塚古墳(千葉県木更津市)と対比ができる。ともに、仏教文化のうかがえる遺物としても重要である。

一 上野国を支える有力豪族の墳墓であり、文化水準の高いことをよく示している。

古墳のつくられた時期  
この古墳の築造年代は、榛名山ニツ岳爆裂以後(7世紀初頭)、大化改新以前(六四五年)で、7世紀前半の頃と推定されている。

昭和五十八年三月三十一日

文 部 省

群馬県教育委員会

高崎市教育委員会

高崎市文化財めぐり西コース

総合案内板 高崎市八幡町字観音塚(一) 田 町



さて、これは西側から前方部を見たところ



これは前方部先端裾を南西側から北東方向に見たところ





その右手を見たところ/道路で墳丘裾が削られている





辺りの墳丘裾にはさまざまな石造物が祀られている





さて、後田部近くの基壇には「史蹟 観音塚古墳」と記された標柱が立っていた



ここにも新しい説明板があった/ここでは6世紀末～7世紀初めの築造と記されている/出土品は近くの観音塚考古資料館に収蔵・展示されている

# 国指定史跡 観音塚古墳

所在地 高崎市八幡町字観音塚 1087 番地  
指定年月日 昭和23年1月14日

本古墳は、高崎市街地西方の八幡丘陵に所在する大型前方後円墳である。墳丘長は現状105mで、周囲に堀を巡らす。6世紀末～7世紀初めの築造で、前方部の幅や高さが後円部を凌ぐのは、前方後円墳終末期の特徴である。

後円部南に開く両袖式の横穴式石室は、全長15.3m、玄室長7.1m、同幅3.4m、同高2.8mを測り、最大で10畳大の巨石をみごとに組み上げた、日本を代表する巨石石室である。石材は北方を流れる烏川の上流から運搬したとみられる。

1945(昭和20)年、防空壕の掘削で多量の副葬品が出土し、一括して国重要文化財に指定されている(指定名称:上野国八幡観音塚古墳出土品・昭和36年2月17日指定)。銅製容器、鏡、装身具、武器、武具、馬具、須恵器など30種約300点あまりを数え、なかでも銅承台付蓋碗や刀装具、透彫のある香葉(馬具の一部)などは、日本の後期古墳出土品のなかでも名品として知られる。

八幡台地においては、平塚古墳(105m、5世紀後半)→八幡二子塚古墳(66m、6世紀前半)→観音塚古墳と、三代にわたる前方後円墳が確認できる。また、北方の剣崎長瀬西遺跡(5世紀後半)では朝鮮半島系渡来人の実在を示す資料が出土している。八幡台地を拠点にして古代碓氷・片岡郡域に勢力を張り、渡来人を配下に編成して地域経営を行った東国有力の首長像が推定できよう。

なお、出土品は観音塚考古資料館に収蔵・展示されている。

平成26年6月30日

高崎市教育委員会





平塚古墳(5世紀後半)→二子塚古墳(6世紀前半)→観音塚古墳と、三代にわたる前方後円墳の系譜



1. 剣崎天神塚古墳 (消失)
2. 剣崎長瀨西古墳
3. 若田大塚古墳
4. 榎ノ木塚古墳
5. 観音塚古墳
6. 平塚古墳
7. 二子塚古墳
8. 剣崎長瀨西遺跡

北東側



北西側

南東側

南西側

現在地



さて、これはくびれ部





左手の前方部





右手の後円部





その後円部の南側には横穴式石室が開口している





これが自然石乱石積両袖型横穴式石室/羨道から玄室を見たところ/  
上には楣石が架かっている



玄室の奥壁が見える/天井の高さは2.8mと人の背丈以上に高い/玄室入口と中央にも框石が敷かれ、玄室を前後に仕切っている





左手を見たところ



右手を見たところ





正面が奥壁



奥壁から外(入口)の方向を見たところ/両袖型であることが見てとれる





これはそこで天井を見上げたところ/天井部・側壁・奥壁に巨石を使用しており、奈良の石舞台古墳の石室と並び称されている



これは羨道から外(入口)の方向を見たところ





さて、これは基壇上で横穴式石室のある後円部から前方部方向を見たところ





これは墳丘に登ってくびれ部辺りから後円部を見たところ





これは後円部の墳頂で東方向を見たところ/さまざまな小祠が祀られている



同じく南東方向を見下ろしたところ





その斜面を見ると葺石の名残りが見られた



これは振り返って後円部からくびれ部と前方部方向(西方向)を見たところ





くびれ部の辺りにも葺石が残っている



そのくびれ部から前方部を見上げたところ





前方部の墳頂辺りにも葺石が散乱している





前方部墳頂にあった小祠





これは前方部の端から西方向を見下ろしたところ



これは振り返って前方部から後円部方向を見たところで、前方部が後円部に比べて大きく発達して高く大きいことが見てとれる





左手を見下ろしたところ



右手を見下ろしたところ





これは横穴式石室入口辺りにあったさまざまな石造物



参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki\\_kannontuka/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki_kannontuka/)

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014010800718/>

<http://www.gunmaibun.org/remain/guide/tyumo/kannonzuka.html>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kp-kannonzuka.html>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/mu-kannonzuka.html>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2014/10/07/223756>

[http://kofunmoodys.fc2web.com/takasaki\\_4\\_yawata.html](http://kofunmoodys.fc2web.com/takasaki_4_yawata.html)

<http://www13.atpages.jp/ootama/page057.html>



